

# 楠ヶ丘会 ウィメンズくらぶ

No. 30

2023.03.24

発行 楠ヶ丘会ウィメンズくらぶ世話人一同

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1番 神戸市外国語大学楠ヶ丘会館内

Tel・FAX 078-794-8108 <https://www.kusugaoka.jp/>

<https://www.facebook.com/kusugaokawomen>

## ウィメンズくらぶ これまでとこれから

ウィメンズくらぶニュースが、ついに第30号を迎える。この機会に、ウィメンズくらぶの歴史を紐解くべく、楠ヶ丘会館の倉庫奥深くに眠る古いファイルをめくってみた。

「楠ヶ丘会ウィメンズくらぶニュース（仮）」として、第0号が発行されたのが1994年。当時、私は英米学科2年生。学生時代まさか、楠ヶ丘会の存在さえろくに知ることなく、日々、膨大な予習・復習と片道一時間半の通学とクラブ活動（シネマソサエティ）に追われていた。

楠ヶ丘会ではウィメンズくらぶ発足に向け、多くの先輩方が尽力していた。阪神・淡路大震災によりいったん活動が止まったものの、1997年に「女性交流の会（仮称）」発起人会が開催され、「楠ヶ丘会ウィメンズくらぶ」として正式に発足し、ニュース第1号が発行された。私が大学を卒業し社会人として歩み始めた年である。

以後、ウィメンズくらぶは実にさまざまな経歴を持つ個性的な女性卒業生による講演会を展開。2006年には関東ウィメンズくらぶも発足。女性としての生き方やキャリア形成に悩む卒業生・現役生を鼓舞し続けてきた。

一方、大学卒業後は年会費を支払うだけのごく一般的な楠ヶ丘会会員だった私だが、会誌で知ったウィメンズくらぶのことが頭の片隅にずっと引っかかっていた。子どもが少し大きくなった2011年、ふと思立って楠ヶ丘会総会に出席して少しだけ発言したことがきっかけで原和美代表にお声掛けいただき、ウィメンズくらぶの世話人の仲間入りをさせていただいた。その後、さらに楠ヶ丘会とのご縁は深くなり、気づけばこの伝統あるニュースの編集に携わっている。

初期のモノクロの紙面からは「女性卒業生が全体の半数になった今、もっと女性卒業生の存在感を強めたい。つながりを深め励ましあいたい」という熱い思いがひしひしと伝わってくる。これほどの熱意を持っていた初期メンバーの方々に恥じない活動を今の私は出来ているだろうかと自問する。

1994年当時に比べ、現在は少しは女性が自分らしく生きられる社会になりつつあるように思えるが、まだまだ道半ばである。令和という混迷の時代を生きていくこれからの女性卒業生が歩く道を、ウィメンズくらぶが少しでも明るく照らす道標となればと願う。そしてかつての私のように「ウィメンズくらぶってちょっと気になるけど、仲間入りしていいものかどうか」と躊躇している方は、どうかお気軽に飛び込んできていただきたい。一緒に楽しく活動しましょう。お待ちしております。

(R・K)

## ウィメンズくらぶ第26回講演会・交流会報告

### テーマ：「わきまえない女」

講師：水野 晶子 さん (学30EC)



2022年11月3日(木・祝)、小春日和の大変気持ちの良い午後、フリーアナウンサーの水野晶子さんをお迎えし、ウィメンズくらぶ講演会・交流会を開催しました。

小学生の頃から将来はアナウンサーになると決めていた水野さん。大学入学後もキャンパス内では標準語で通し、夜間のアナウンサー養成スクールに通って勉強しました。

しかし、夢をふくらませて飛び込んだメディアの世界は女性に対して厳しいものでした。オーディションの際にも「結婚は？」など関係ないことを聞かれる。女子アナウンサーは正社員になれず一年ごとの契約社員であり、収入は正社員の同期男性アナウンサーの4分の1。女子アナウンサーが任されるのはお天気と季節の話題だけ。大阪弁でラジオのメインパーソナリティーとしてしゃべりたいと希望を話すと、「女の子の大阪弁は下品」「女がメインはあり得ない」「男を脅かす場所を狙うな。男を助ける立場のトップを目指しなさい」と言われた……など、枚挙にいとまがない数々の女性差別を受け、「わきまえる」ことを覚え始めたといいます。



会社を辞めてフリーアナウンサーになることも考えましたが、性差別をはじめとする社会の矛盾から目を背けてしまったら、この先何十年続けても意味のあるアナウンサーにはなれないと思い直し、おかしいと思うことはおかしいと言おうと決めました。仕事が減るなどの憂き目にあいながらも女性社員の待遇を良くするために声を上げ続けていたある日、選挙の特番の男性メインキャスターが体調を崩し、急遽ピンチヒッターを言い渡されます。日頃から政治の勉強を続けていた水野さんは勉強の成果を生かして見事に番組を成功させました。「女子アナウンサーでも出来るんだ」と周囲の評価が変わり、以降、多くの番組を任されるようになり、定年退職まで何の差別もなく務めることが出来たのだそうです。

やがて、男性社員の中にも学歴などで差別を受けている人がいることを知り、さまざまな形の差別に目を向けるようになった水野さん。現在、各地で上映中の映画「ワタシタチハニンゲンダ！」

においてナレーションを務めておられます。在日コリアンをはじめとするさまざまな外国人への差別問題を追ったドキュメンタリー映画で、ナレーション録音時も声が出ないほどの衝撃を受けたといいます。世界が刻一刻と変わっていく昨今、映像には出てこないために人々が忘れてしまいがちな「闇」の部分を見誤ることなく伝えていかなければ、と信念を語って下さいました。

現在、朗読家としても活動中の水野さん。「わきまえない女」の最高峰ともいうべき、与謝野晶子の詩を朗読して下さいました。戦地に赴く弟を案じ、戦争を激しい言葉で批判した「君死にたまふことなかれ」の朗読に、参加者からは大きな拍手が送られました。

質疑応答では、水野さんから参加者に対し「外大で学んだことは卒業後生かかせていますか？」とのご質問が。「翻訳の仕事に就いている」「通訳をしている」などさまざまな回答があり、楽しい交流となりました。「女だから出来ない」と言



われたことを「女でも出来るんだ」に変えていった水野さんはじめ多くの「わきまえない女性たち」の勇気と奮闘があったからこそ、女性を取り巻く状況が改善されていったのだと、今回の講演会で実感しました。

檜原令子 (学46E)



## ◎参加者から

- 講演の内容が実に深く、いろいろな思いを体験した方ならではのお話に引き込まれました。突然にやってくるチャンスを自らの物とすべく、日頃からの精進が実を結ぶのだと感銘しました。最後の朗読には、言葉と音の持つ力に感動しました。
- かつて、マスメディアの世界に女性差別があったのかと改めて思い知りました。まだまだ差別は残っていると思いますが、現在、正規と非正規の差別ほど根深い問題はないですね。そう思うと差別の問題はますます深くなっているようです。また一方で、テレビで解説委員やコメンテーターなど、どんどん女性が活躍するのを見ていると大きく変わっている気もしますが……。



## お知らせ

# ウィメンズくらぶ第27回講演会・交流会

日時：2023年10月後半～11月を予定  
(決定次第ご案内いたします)

場所：神戸市外国語大学内  
(決定次第ご案内いたします)

参加費：無料

講師：西崎智子さん (学37EA)



講師略歴：広島フィルム・コミッション (FC) スタッフ。神戸市外国語大学英米学科卒業。2002年の同FC設立に関わり2003年より現職。ロケ誘致やエキストラ手配などを担う。主な支援作品に「父と暮せば」、「夕風の街 桜の国」、「この世界の片隅に」、第94回アカデミー賞国際長編映画賞を受賞した「ドライブ・マイ・カー」。

演題：「撮影誘致の現場から  
～『ドライブ・マイ・カー』の事例とともに」

西崎さんから：映画は好きですか？多くのスタッフが関わる映画制作を、準備段階から支え、映画という新たな街の宝物を作り出すフィルム・コミッションの活動についてご紹介させていただきます。母校を訪れる機会をいただき嬉しく思っています。

## 関東ウィメンズくらぶより

みなさん、お変わりなくお元気でお過ごしでしょうか？ コロナ禍三年、制約の多い日々が続き、これまで当たり前に出たことが出来なくなりました。関東ウィメンズくらぶ交流会の開催もその中のひとつです。ちょうど三年前、世話人メンバーで話し合い、5月に予定していた交流会の見送りと、「新型コロナウイルス感染症が収束するまで活動を休止する」ことを決めました。春の訪れとともに、少しずつ日常が戻り、ウィズコロナ・ポストコロナの時代に移行する見込みですので、来年5月に交流会を実施できるよう、世話人活動の再開を検討いたします。さらに一年、お待たせしてしまいますが、来年5月に再会しましょう！今年の桜は平年より早く咲き始めるようです。何の気兼ねもなく、春咲く花を愛でたいと思います。みなさんも、良き春をお過ごしください。

(世話人代表 藤岡佐恵子 (学33H))